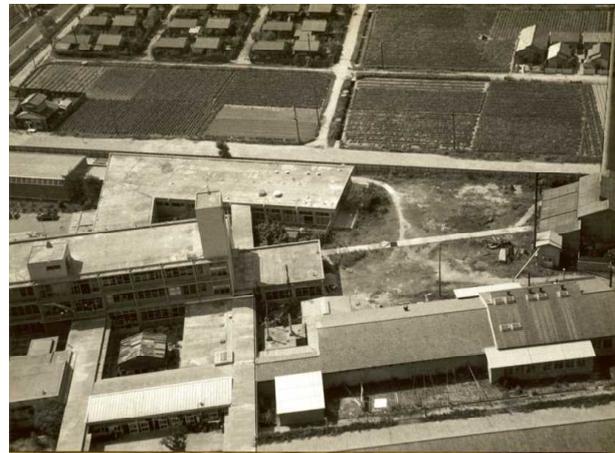
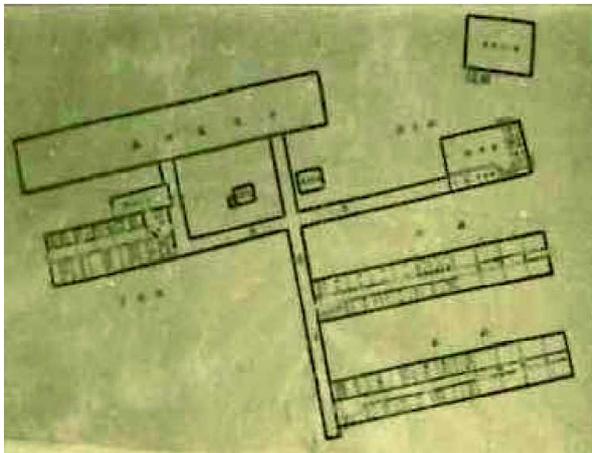


労災病院の誘致

競艇場の建設にとどまらず、阪本市長はさらに市勢の回復を図る様々な手を打ちました。既に大阪に内定していた全国3番目の労災病院の誘致もその事例です。無謀とも思える画策ですが、中央官庁への工作や単身労働大臣室へ乗り込んでの直談判等、凄まじい執念と行動力をもって劇的な逆転を成し得ました。防潮堤(防災)⇒競艇場⇒湿地帯埋立(衛生健康)・学校整備・病院誘致…一見何の関係もないような施設も、私達の健康や安全、教育に関わって見えない糸で結ばれています。これら大庄地区にある施設は、長く将来にわたって尼崎に貢献し続けています。係る先人の労苦に感謝です。



建築・整備工事中の労災病院 昭和27～28年ごろ



設立当時の病院各棟の図面と航空写真

1953年1月20日部分開業、8月本館竣工。1956年4月当初計画規模の548床まで増床、9診療科に





各写真：昭和27年～34年頃 提供 尼崎市立地域研究史料館
<参考資料> 図説 尼崎の歴史 ジェーン台風と防潮堤 apedia「労災病院」